

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 物理媒体利用ディスプレイの符号化に関する基盤技術の開発

2. 個人研究者名

上瀧 剛（熊本大学大学院先端科学研究部 准教授）

3. 事後評価結果

旧来のテレビなどの映像機器に代わる次世代のディスプレイとして、360 度から立体映像を見渡すことができる多視点ディスプレイや、3D プリンタなどで作成した物体やプラズマや超音波などの物理的な媒体を用いたディスプレイが注目を集めている。本研究ではこのような次世代ディスプレイの映像モデルを制約付き因子分解問題として捉え、新たなデータ符号化技術の創成を目指した。

単一の視覚提示対象に複数の映像を重畳するという独自性の高いアプローチが評価できる。数理モデルの形成から実装・応用システムまでが一気通貫で実現できている点が評価に値する。

今後は、実用的な使い道を探求されることを求めたい。また、理論の開発から実装までを手掛けられる研究者は限られているので、その強みを生かして更なる革新的な研究を進めてほしい。